

E043 矢筈山(静岡県GEO DATA(27)特集3 :  
地学散歩(106))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-11-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齊藤, 俊仁, 遠山, 敬二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/0002000134">https://doi.org/10.14945/0002000134</a>

E043 やはずやま  
矢筈山



矢筈山は突き出した山体が遠方から際立って目立つ標高810 mの溶岩ドームで、池集落の西にそびえる伊東市の最高峰である。東海岸から見ると頂上付近が人の拳（こぶし）に見えるため、地元では「げんこつ山」と呼ばれて親しまれ、大室山に並ぶ伊東市のシンボルとなっている。平成元（1989）年に噴火した手石海丘を除くと、デイサイト質の矢筈山の噴火はこの地域で最も新しく、約2700年前に孔のやまと並んで伊雄山～岩ノ山火山列のほぼ中央に噴火したと考えられている。

山頂近くまでは登山道があり、頂上付近の巨岩の上に立って東方を見下ろすと、伊豆大島に続く伊豆諸島や太平洋、大室山や伊豆高原、池の田園風景を俯瞰でき、中腹から北方を望むと富士山や箱根、



丹沢山地が遠望できる。山頂付近まで炭焼きの窯跡が見られ、昔は雑木林は薪炭材として利用されたが、数本のモミの巨木は現在まで成長し続け保存されている。大きく3列した頂上付近では、冬に岩の隙間から水蒸気の立ち上るのが見られるが熱源は観察されない。矢筈山溶岩ドームは谷川の中央に噴火したため、山麓にいくつもの窪地が出現し、山体にしみ通った雨水が地下水となって山麓から湧き出すため、小規模な扇状地でワサビの栽培がおこなわれている。

（斉藤俊仁・遠山敬二）

国土地理院 地理院地図（電子国土Web）